

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ハッピージュニア					公表日 R7年 6月 6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用人数、支援目的に応じて3部屋を使い分けている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5		基準人員に加えて、人員配置しており、メインで支援する者、後方支援する者など、その日毎に役割を決めて支援にあたっている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		遊戯室は身体を動かす空間、学習室は座って静かに遊ぶ空間と、児童にも認識できるように完全に部屋が分かれている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日清掃を行っている。 湿度や室温にも配慮し、児童が快適に過ごせる空間を心がけている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		利用人数、支援目的に応じて3部屋を使い分けられた。 特に相談室はクールダウン等に使用できるように、必要時以外は空けるようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		日々のミーティングにて、前回の支援のうまくいった点や改善点などを話し合い、フィードバックしてその日の支援に生かしている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		年1回の評価アンケートはもちろん、日々いただくご意見を支援や運営に反映している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日のミーティングにて、支援や運営、業務内容について意見交換している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	第三者委員会は設けていないが、運営コンサルタントに業務の助言をもらっている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年4回程度の研修（外部研修、事業所内研修）の機会を設けている。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムについてはホームページにて公開しており、事業所の活動内容については保護者向けアプリやSNSを活用して公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		ご家族のご意向はもちろん、日々の児童の行動観察、児童本人の思いを拾いながら作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		策定会議にて、原案に対する意見や質問を聞き、具体的な声掛けなどを提示することで共通理解をしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		利用日毎に個別支援計画の振り返り（評価）を行っており、児童の支援目標を常に意識できるようにしている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		ストラテジーシートの様式を使って問題行動の対処を考えたり、保護者からの報告・取り巻く環境を含めて行動観察をしている。			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・児発管が作成する個別支援計画の記載をもとにして保育士が具体的なプログラム活動を考案している。 ・専門職員が専門的支援実施計画を作成して、必要な児童には個別支援を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月ごとに発案者を決めており、児発管と相談して大筋を決め、職員間で共有している。 進行の方法や留意点などを話しあっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		月ごとに4～5種類程度の活動を設定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		集団療育メインだが、児童の状況や専門的支援が必要な場合は個別活動ができるように配置している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日ミーティングで打ち合わせを行い、活動内容や、前回の児童の様子を踏まえた留意点などの情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		送迎業務後、時間が確保できない場合以外は振り返りができている。 時間が確保できない場合は翌日に打ち合わせをしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		提供記録・ケア記録を通して記録している。 必要に応じてミーティングにて議題にし、対応を考えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		日々の様子を児発管に報告しており、目標達成しているようであれば更新月でなくても、更新するようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		毎月のプログラム活動で偏りなく経験できるようにしている。 地域交流に関しては近くの公園や図書館にて地域の方々と触れ合う機会を設けている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		毎回設けている余暇の時間には、自分で好きな遊びを選択する機会を持たせるなど工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		基本的には児発管が参加しているがOJT期間中の職員が同席するなど工夫している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて学校や保育園に情報提供を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		年度開始時には職員の顔写真を渡し、安全に引き渡しが行えるようにしている。情報は保護者の方からの連絡がメインではあるが、送迎時に確認することもある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		サービス担当者会議などの機会に情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		該当者なし。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		研修会が実施された場合には参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		近所の公園や図書館、児童センターなどへ行った際に交流している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	必要に応じて管理者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		お引き渡し時や面談時に伝えあっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	面談などで個別に応じている。	研修会の機会がなかったため、ニーズを探りながら開催に向けて動いていきたい。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。 運営規程については玄関に設置しており、閲覧自由にしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		児発管が面談時に聞き取りを行うことと、日々の支援のなかで子供の思いに察するように行動観察を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		更新ごとに説明している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		ご要望に応じて個別面談を実施したり、ご家庭での取り組みを提案したりしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしている		5		開催に向けて、保護者が必要としている情報の把握に努めたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		いただいたご意見は記録し、職員間で対応や再発防止について協議して、迅速に対応するよう心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNSでの発信は毎日行い、保護者向けのアプリやLINEでは連絡事項など周知徹底している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きの書庫に、児童情報は保管しており、児童情報の入った運営アプリはパスワードをつけて管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		LINEや保護者向けのアプリで図や写真、絵など示しながら情報伝達している。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		今後、実施していきたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを策定し、玄関に閲覧自由な状態で保管して周知している。感染症の訓練は流行時期に合わせて行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		計画策定しており、避難訓練を実施した。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	該当者はいなかった。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	医師の指示書が必要な児童はいないが、食事の際には中身の交換などがないよう指導、食するときの座席の位置などに配慮している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		計画作成しているほか、適宜訓練を行っている。また施設内の安全管理についても、日々遊具や玩具の点検など行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			安全計画は公開していないため、ホームページに公開するなどして周知に努めたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		毎日のミーティングで内容を共有し、再発防止についても話しあっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修を行うほか、通報を行う際の手順や基準などの確認を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		該当者はいないが、身体拘束適正化研修など行っている。	